

19. 6. 7 佐倉市 教育センターだより Vol.12

平成19年6月7日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

教育の大きな変革の時…センターの果たす重責を感じながら (より身近で、より頼りになるセンターを目指して)



所長 杉本 勉

このたびの人事異動により、センターに就くことになりました杉本です。大野所長を核に開所以来4年間の着実な調査研究の積み重ねに敬意を表すと共に、今後さらにこれらの研究を進化、発展させていく上でも、また教育の機能を高めるためにも、センターの役割の重責を感じているところであります。あわせてセンター資料室には数多くの貴重な資料が収集・保管されていますが、これらの活用も含めて、もっとセンターが先生方や市民の方々にとって身近で気軽に研究・研修のできる機関としてご活用いただけるようにと考えているところであります。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年12月、約60年ぶりに教育基本法の改正が成され、これを受けて現在さまざまな法案の改正が審議されるなど、まさに今、教育改革の渦中にあります。教育再生会議の第一次報告の中でもいろいろな教育課題が指摘されています。

このような一連の動向の中で、教育現場ではいろいろな面で「不易と流行」を踏まえながらも、「信頼される学校づくり」の推進のために、教育水準の向上と教育内容の改善を目指して取り組まれています。また同時にこのことの実現のために、教職員の意識改革も含め、多くの創意工夫を生かした学校の独自性と特色化に努めているところです。

佐倉市教育センターは、平成15年4月に開所して以来、おかげさまで今年で5年目を迎えました。この間、佐倉市教育の現状を把握することや新しい時代に対応した佐倉という特色を生かした教育を推進すること、また子供たちの学力向上を目指した指導法の改善のための調査研究など、数々の調査研究や意識調査などを行ってきました。これらの調査研究物のデータの中には、今日的な課題に対しての実態とこれらへの対応について、多くの興味深い内容が含まれています。しかしながら、3月まで現場にいた者といたしましても、手間隙かけた折角の調査研究であるにもかかわらず、教育現場においてそれらが有効かつ日常的に活用されているかということに対しては、残念ながら必ずしも十分であるとは言えない現状があると感じています。（なぜなら、発信する側の思いと受信する側の体制に、不十分さがあったからだと思います。）

今まさに、教育を取り巻く環境は大きな変革の時を迎えています。それゆえ、教育センターの使命と機能が問われていると思います。多くの課題に対しての調査・研究と、それらの結果分析による対応策・改善のための提言を可能な限り示し、できるだけ多くの方々の認知度を高め、教育活動により生かしていただけるようにしていきたいと考えています。

どうかセンター事業に対して、ご理解とご協力、ご鞭撻をお願いいたします。

平成19年度の主な年度計画

4月	教育相談開始	9月	佐倉市教育センターだより発行 Vol. 13
6月	佐倉市教育センターだより発行 Vol. 12	11月	千葉県教育研究所連盟研修会（年4回）
	学習状況調査研究会（年4回）	12月	学習状況調査（～2月）
	学習意欲に関する調査	1月	佐倉市教育センターだより発行 Vol. 14
7月	佐倉学道德副読本編集会議（年3回）	2月	佐倉市教育センター等報告会
	教育課題検討委員会		教育課題検討委員会
	家庭教育に関する調査	3月	佐倉市教育センター紀要発行
	佐倉市教育センター研修会		

朝ごはんをきちんと食べていますか

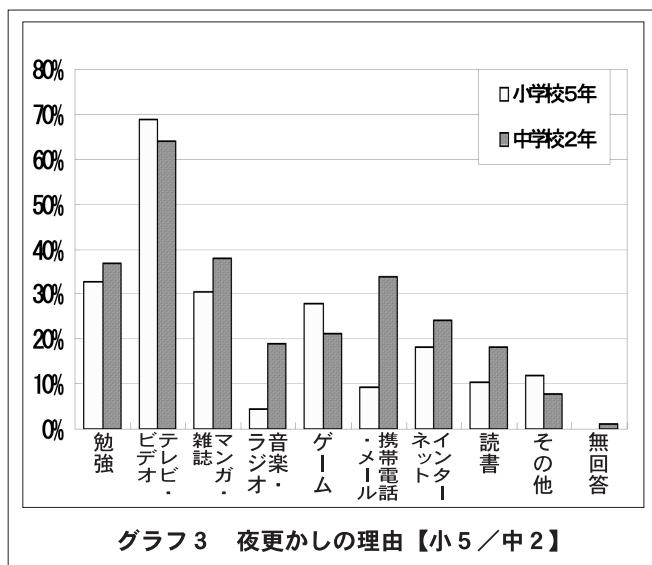
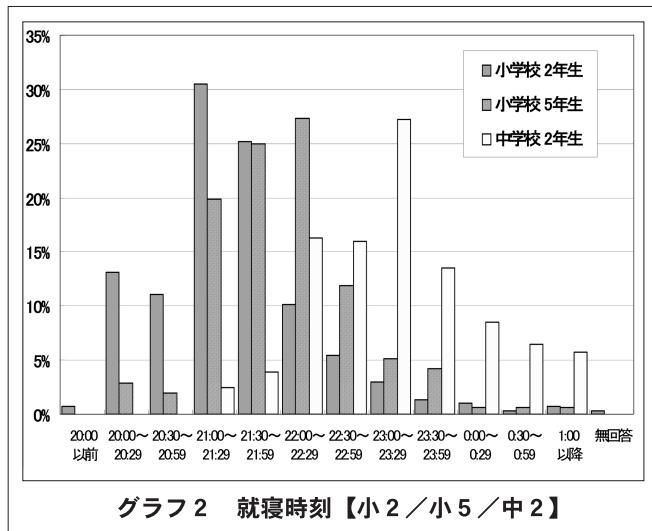
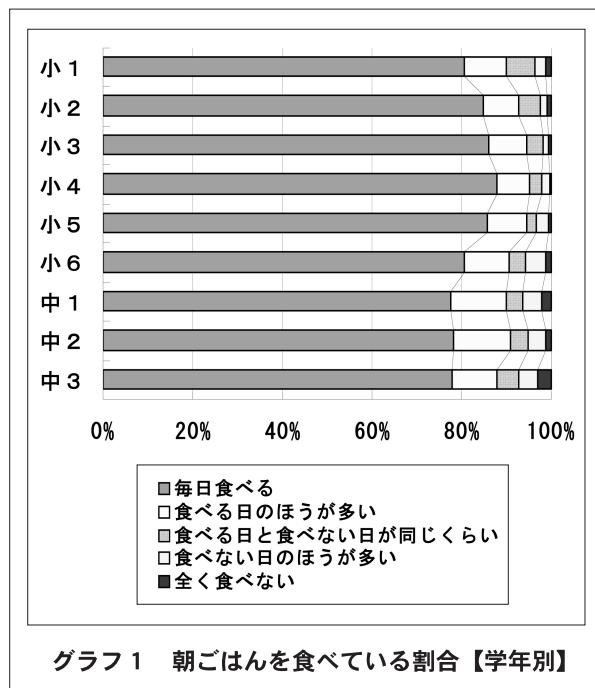
——「学習状況調査」「道徳意識調査」「健康・体力に関する調査」より——

1 昨年度の佐倉市教育センターにおける調査

昨年度、佐倉市教育センターで実施した大きな調査は、「学習状況調査」「道徳意識調査」「健康・体力に関する調査」の3つです。最近、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さがよく指摘されていますが、佐倉市教育センターでもこの3つの調査の中で、朝ごはんについての調査を取り入れました。今回は、朝ごはんに関する部分を中心取り上げて紹介します。

2 朝ごはんを食べているかどうかについて

学習状況調査（全数調査）の結果から、小・中学生の約80%が朝ごはんを毎日食べています。小学校4年をピークに毎日食べている割合が徐々に減り、小学校高学年から中学校になると「全く食べない」「食べない日の方が多い」の割合が少しずつ増えてきます。【グラフ1】



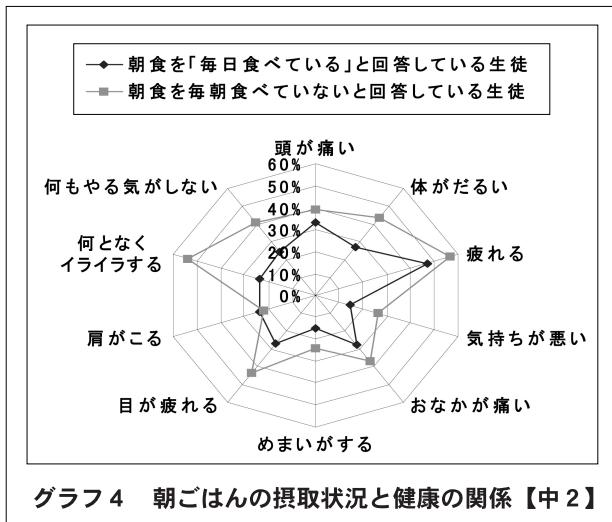
3 朝ごはんを食べない理由について

健康・体力に関する調査（抽出調査）で、朝ごはんを食べない理由を調べたところ、「食べる時間がない」「お腹が空いていない」という回答が多く見られます。そこで、小・中学生の就寝時刻と夜更かしの理由について調査しました。

就寝時刻は、小学校2年が午後9時、小学校5年が午後10時、中学校2年が午後11時くらいです。しかし、少

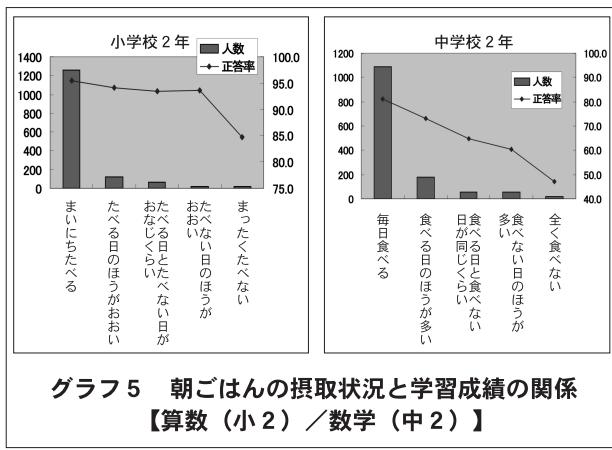
4 朝ごはんと健康について

夜更かしをして朝起きられなくて時間がなくなり、朝ごはんを食べないで学校に行くということが、健康にどう影響しているかを健康・体力に関する調査（抽出調査）で調べました。ほとんどの項目において、朝ごはんを食べていない生徒の方が体の不調を訴えています。特に、「イライラする」「体がだるい」という症状は、朝ごはんを食べていない生徒に多いといえます。【グラフ4】



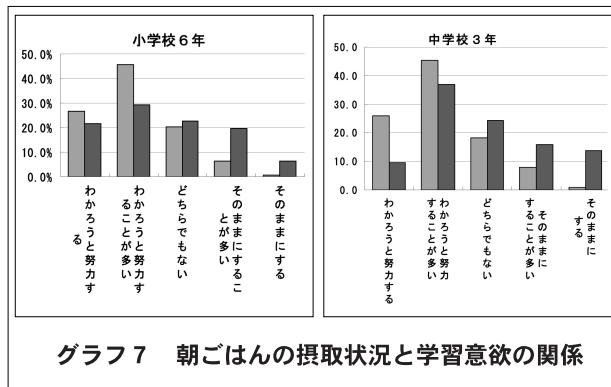
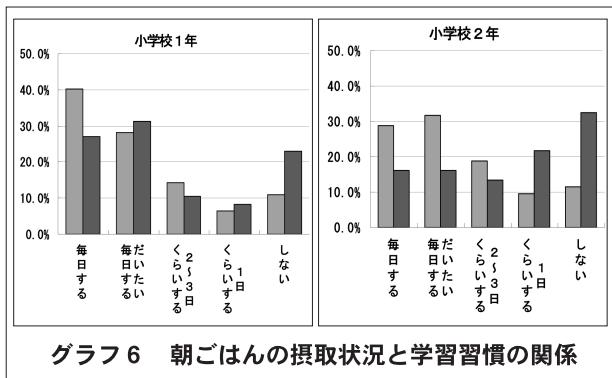
5 朝ごはんと学習成績について

学習状況調査（全数調査）において、朝ごはんを食べているかどうかと学習成績の関係を調べました。ほとんどの学年で、朝ごはんを食べている人の方が食べていない人よりも学習成績が高い傾向が見られました。また、学年が上がるにつれて学習成績の差も大きくなります。特に、算数・数学は差が大きく、毎日食べている人と全く食べていない人を比べると、小学校2年では約10点、中学校2年では約30点の差があります。【グラフ5】



6 朝ごはんと学習習慣・学習意欲について

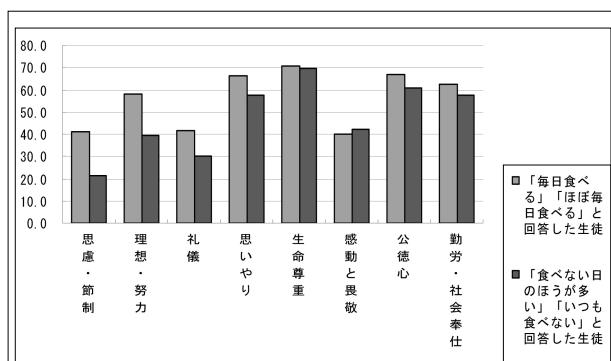
グラフ6と7⇒<左…食べている 右…食べていない>



学習状況調査（全数調査）において、朝ごはんを食べているかどうかと学習習慣、学習意欲の関係も調べました。ほとんどの学年で、朝ごはんを食べている人の方が食べていない人よりも学習習慣が身についていますし、学習意欲が高い傾向が見られました。また、学年が上がるにつれてその差も大きくなります。【グラフ6と7】

7 朝ごはんと道徳的習慣について

道徳意識調査（抽出調査）において、朝ごはんを食べているかどうかと道徳的習慣について調べました。ほとんどの項目で、朝食を食べている人の方が食べていない人よりも道徳的習慣が身についていますし、学年が上がるにつれてその傾向が強くなります。【グラフ8】



8 まとめ

これらの調査結果から、朝ごはんを食べているかどうかで、健康面・学習面・道徳的習慣などで大きな差が見られます。だからといって、学校で「朝ごはんをきちんと食べる」という指導を子どもや家庭にするだけでは解決にはなりません。「朝ごはんを食べていない」というところから、子どもの心やその家庭の様子など様々な面を見ていく、その子どもへの対応を考えていく必要があります。規則正しい生活習慣や家族との会話から子どもたちはいろいろなことを学んでいるのです。（沖永 寛）

1 はじめに

健康志向が高まり、健康に関する情報が世の中にはあふれています。2005年7月に食育基本法が施行されてからは、食に関する報道やテレビ番組も一層増えているように感じます。しかしその一方で、それらの情報は信用するに足るものなのかを疑わざるではいられない状況にあることも事実です。上志津小学校では、一過性のものではなく、地に足をつけ、地域に根を張った食育を推進することが、30年後の子どもの健康を左右することにつながると考え研究を進めてきました。人生の基礎を身に付ける小学校期の食育は極めて重要な教育活動の一つであるといえるのではないかでしょうか。

昨年度、本校での健康教育公開研究会において、多くの方々に参観していただき、多方面から、ご指導やご意見を頂きました。感謝をこめて、研究の一端を紹介させていただきます。

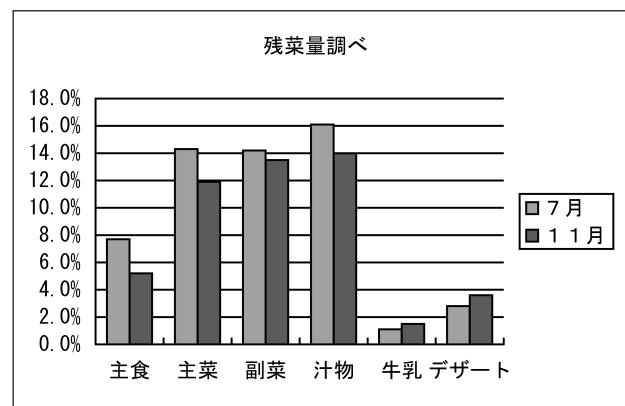
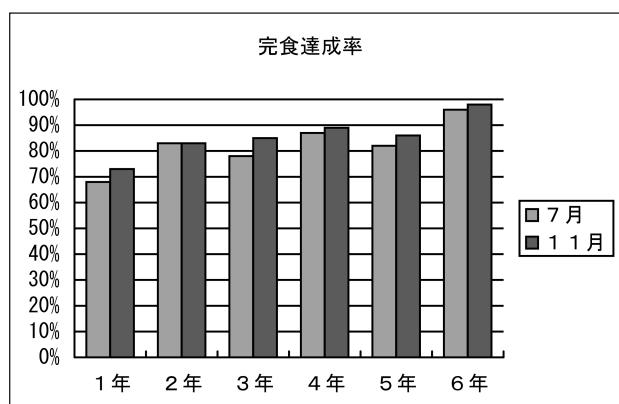
2 今をみつめて（食育的学力の育成）

食育に関する学習内容を「体の健康」「自己管理能力の育成」「心の育成」「社会性の涵養」の4領域に分けて学年毎に整理、体系化して『上志津小学校食育ミニマム』を作成しました。ミニマムとは、各学年で、これだけは身に付けさせたい学習内容です。

食育の単元は、確立したカリキュラムがないため、各学年で創意工夫するだけでは系統的な指導ができにくいという面があります。食育の学習内容を、食育的学力ととらえ各学年に応じた学習の系統を整理することで、各教科・領域との関連もとらえやすくなりました。

3 自分をみつめて（食の振り返り）

平成12年度より行ってきた食育に関する研究の一環として、3種類の質問紙による調査を継続しています。今回は、『給食食べたかな？』調査について紹介します。全児童を対象に年2回行う調査です。目的は、給食をどれだけ食べられたかや残菜量を視覚化、数量化して食生活を振り返らせることにより健康づくりへの関心を高めることにあります。7月と11月



月の一週間同じメニューでその日の給食をどれだけ食べられたか児童一人ひとりが自己評価し記録用紙に記入します。同時に、調査期間中の各学級の食べ残し量を料理別に給食室で計量することで客観的なデータも採っています。今年度の結果（グラフ）をみると、「全体の食べ残しは、全体的数値として残菜量が減っている。」「各料理別にみてもどれも残菜量が減っている。」といった成果が出ました。数値化することで成長が自覚できることで自信が持てたとの感想も聞くことができました。また、6年生の調査結果を数値化し、対応のあるT検定をして統計的な有意差を確認しました。6年生の主菜を対応のあるT検定で分析すると有意確率は「0.158」で、有意差は認められませんでした。その理由としては「15ポイント」が上限の中、7月の平均値がすでに「14.7129」ポイントと高いことが考えられます。また、標準偏差でばらつきを分析しても「0.89818」と非常に少なく、有意差がでにくい状況にあったことが考えられます。一方で、副菜の比較では有意確率が「0.01」となり、有意差が認めされました。残菜量が減ったという事実とともに児童自身が成長を自己評価できた結果と考えられます。

4 地域をみつめて（地場産物の教材化）



図にあるように地場産物の教育的価値を大きく6つのカテゴリーに分けて定義しました。それぞれの価値項目が絡み合

うことでシナジーが生まれ、児童に対する教育的な効果も高まると考えます。今までに開発した教材を、これらの6つの価値項目で開発・改善することで、地場産物を授業に活用するときの基準ともなっています。

1年生「とうもろこしの皮むきをしよう」の学習を例に説明します。生産者の今関さん（写真）が、今朝取りのとうもろこしを1年生の教室に持ってきてくださいました。この授業を価値項目に当てはめてみます。



生産者の今関さんは「朝3時に起きて採ってきたんだよ。」「みんなに食べてもらうために、薬はあまり使っていないんだよ。」と言う話をしていただきました。そこには、『生産者のいろいろな思いを感じとることができる』『安全性が高い』という価値項目が内包しています。



また、児童は、今朝取りの新鮮なとうもろこしの皮をむく体験を通して、匂いや手触り皮をむくときの音など、五感をフル活用します。『五感を生かすことができる』価値にふれながらの学習であったことも明らかです。

6年生で実践した総合的な学習の時間でこだわったのは、『実物』です。実物とは、地場産物そのものであると同時に、それを作る人であり、それを生み出す環境であると捉えました。佐倉市内の農家に協力を願い見学を計画しました。その農家の方々は、地場産物を学校に納入していただいている方、4年生の時に農業に対するこだわりを話していただいた方、「地域に根ざした学校給食推進事業」の地域推進委員として協力していただいている方々です。農家の方々に会って話を

聞き、作っているところを見て、農作物に触れる体験活動で五感を生かし、本当の良さを感じとるきっかけになったことは明らかでした。実物に触ることで地場産物に対する思いがより深まり、ひいては郷土のよさをみつめるよい機会になりました。

5 未来をみつめて（望ましい食習慣の日常化）

食育的学力は、行動レベルの変容をもってゴールと考えます。つまり、望ましい食習慣が身に付くと言うことです。

一つめの方策は、学習の振り返りを計画的に行うことです。例えば、そしゃくの単元では、学習後家庭に学習内容を伝え、その感想を頂くと共に、定期的な振り返りを単元計画の中に設定するようにしました。

二つめの方策は、日々の給食時間の有効活用です。給食の時間は栄養教諭の思いがたくさんつまっています。そしてその思いを児童に直接関わりながら伝えることができる時間でもあります。例えば低学年では、学習内容を給食に絡めてクイズにします。地場産物の学習の時は、实物を持って教室を回ります。児童は、給食中の栄養教諭とのやりとりを楽しみにしています。さらに、献立にも工夫を加えました。毎月配布する献立表には、佐倉の地場産物がわかるように太字で記入しています。佐倉教育の日には、佐倉うまいもの自慢献立と銘打って、郷土や食文化への理解を深めるようにしています。加えて、昨年度は、佐倉の郷土料理の芋まんじゅうを、米粉を使って「夢まんじゅう」として給食に出してみました。その後児童からのリクエストに名前が出てくるほど好評でした。

継続研究で行っている食に関する調査も、習慣化には効果を上げています。自分の食の記録が残るからです。これらの記録は、そのまま自分自身の成長ととらえることができます。

6 まとめにかえて

食育は、常に『自分』『大切な人』を意識して具体的な課題を見つけ、解決の方法を考えることができます。課題を発見したり、課題解決のヒントが見つかったりしたときの児童は、目をキラキラと輝かせます。6年生の卒業アルバムのページには、地場産物農家の方々と話して「将来の夢は、農家になりたい。」と綴る児童もいました。自分たちと同じ土地に育った地場産物の野菜に愛着を持ち、あたかも地元の野球チームやサッカーチームを応援するような心情が育っているように感じます。

「足跡をしっかりと残し、チャレンジ精神で失敗を恐れず」を合い言葉に研究を進めて参りました。研究を進めるほどに課題も多くなるように感じるときもありますが、子どもたちの将来をみつめて、今後も実践を重ねていきたいと考えています。（研究主任 竹内 重幸、栄養教諭 市村 百合子）

平成18年度朝食指導の取り組みについて

上志津中学校

近年、子供の食生活の乱れ(食生活の夜型化、間食の摂り過ぎ、朝食の欠食、孤食や偏食等)が大きくクローズアップされ、子どもの生活習慣病の増加が懸念されています。また、大人社会では肥満と生活習慣病を重複して引き起こすメタボリック症候群が増加し、大きな社会問題となっています。

そのような中、国は食育の必要性を感じ、平成17年7月には食育基本法が成立し、昨年3月には食育基本計画が策定されました。この食育基本計画の中には、平成22年度までの具体的な目標が定められています。その一つに、国民の朝食欠食の割合を減らすことがあります。具体的には子どもでは現在4%である欠食率を0%にすること、20代男性では現在30%である欠食率を15%にすることとなっています。

そこで、平成18年度上志津中学校においても朝食をテーマに色々な角度から食育に取り組みました。以下、その実践の一部を紹介します。

1 生徒の朝食の実態把握

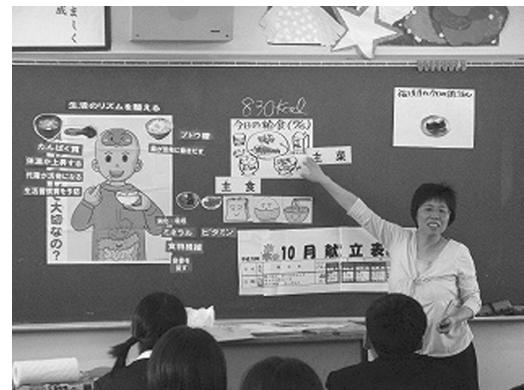
昨年の7月に、佐倉市学校栄養士会・千葉県学校栄養士会では、中学校2年生・小学校5年生を対象に、朝食についてのアンケート調査を実施しました。上志津中学校の2年生でも実施し、実態把握に努めました。

2 三校合同家庭教育学級(10/27)

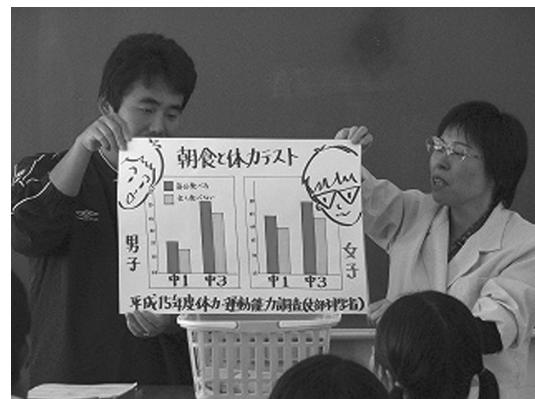
下志津小学校、南志津小学校と連携した三校合同家庭教育学級で、朝食の大切さについて保護者に啓発しました。上志津中学校区の小学校5年生と中学校2年生の実態比較データから、小学生より中学生の方が朝食の欠食が多く、食事を軽んじる傾向が見られること、朝食を摂っていても、食事内容に問題のある児童生徒が多いこと等に重点を置きました。朝食の用意は保護者の責任であること、家族に朝食欠食者がいる家庭の方が児童生徒の欠食も多いので、親が率先して朝食をしっかりと摂り、手本となってほしいことも話しました。

3 佐倉市学校栄養職員食育授業研究会(11/15)

2年2組の担任と学校栄養職員が、『朝食の大切さを知り、自分の命は自分で守ろう』をテーマに、T.Tで特別活動の授業を行いました。この日は佐倉市の学校栄養職員食育授業研究会にあたり、市内30校の学校栄養職員が見学する中で、授業を行いました。また、千葉県教育庁北総教育事務所指導室指導主事の並木進先生にも、ご指導をいただきました。



上志津中学校のサッカーチームは昨年の夏、関東大会入りを果たした強豪チームです。また2年2組の担任はサッカーチームの顧問でもありましたので、サッカーチームの生徒と学校栄養職員が登場する朝食指導の紙芝居を作成し、授業に使用しました。その中には、生徒により身近な学習テーマとして感じてもらえるよう、学習と朝食の関係や、運動(部活動)と朝食の関係などについての国のデータも盛り込みました。



また、生徒各自に自分の朝食を振りかえらせ、食事内容の改善を図りました。授業後の感想では、「自分の命を守るために、しっかり朝食を食べようと思う。」「朝食を抜くと勉強や部活に集中できないことがわかった。」「明日からはもう少し早く起きて、朝ごはんをしっかり食べます。」「野菜が不足していたので、主食・主菜・副菜をしっかりそろえた朝食をとろうと思う。」等、意欲の改善が図れました。

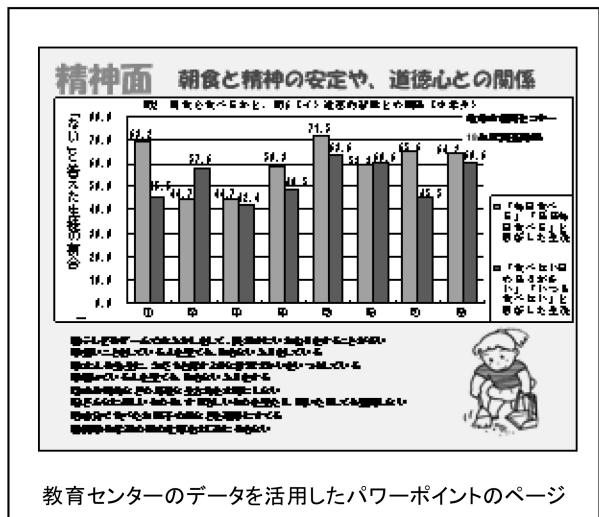
4 2学期末保護者会(12/21)

2学期末保護者会の全体会にて、保護者への朝食指導を行いました。三校合同家庭教育学級では、限られた保護者の方へのPRになってしまいましたので、朝食アンケートの結果から、重ねて朝食の大切さを訴えました。

5 新入生保護者説明会(2/17)

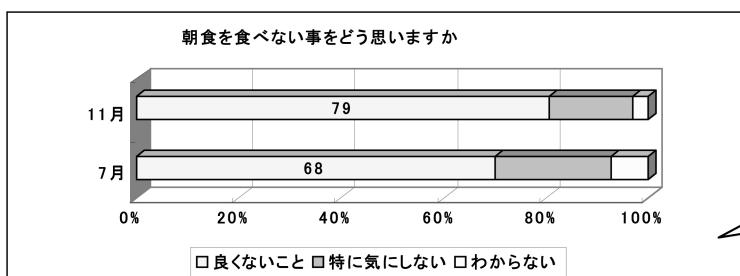
中学校生活が始まると、部活動の朝練習もあり午前中の活

動量も時間も、小学生に比べ大幅に増加します。そこで中学校生活のスタートにあたり、しっかりと朝食をとることの大切さを新入生の保護者に啓発しました。この説明会では、朝食と道徳心の関係など佐倉市教育センターの朝食のアンケートデータも使用させていただき、より身近なデータで話を進めることができました。

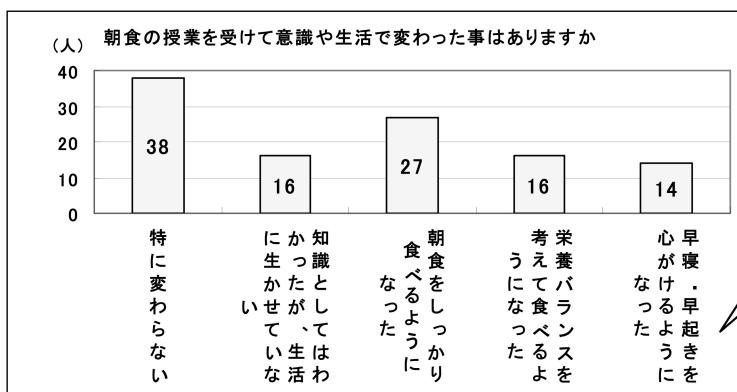


教育センターのデータを活用したパワーポイントのページ

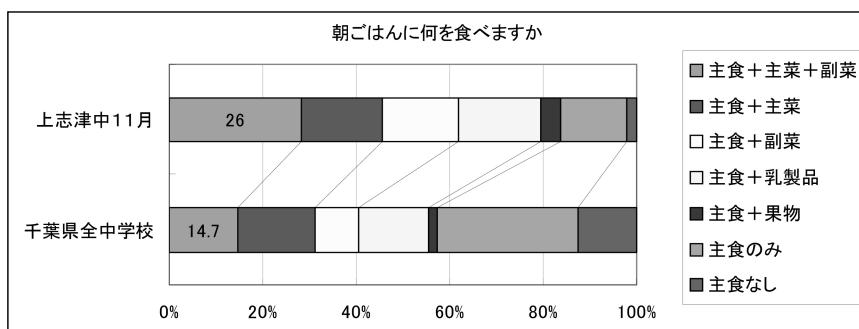
<朝食の授業後の2年生生徒の変化>



朝食を食べないことはよくないことであるという意識が11ポイントも高まりました。



授業後には、「朝食をしっかり食べるようになった。」「栄養のバランスを考えて食べるようになった。」「早ね早起きを心がけるようになった。」など、生活態度を改めた生徒が57人と、半数以上にのぼりました。



朝食の内容も、栄養バランスのとれた(主食+主菜+副菜)のものが30%近くで、県平均の14.7%を大きく上回り、意識して食べている様子がうかがえました。生活習慣を確立するためには、家庭と学校が両輪となって、生徒たちに働きかけていくことが大切です。

6 3学期末保護者会(3/22)

3学期末保護者会の全体会において、朝食指導の取組について話をしました。11月に実施した授業により、2年生の生徒の意識に大きな変容が見られたこと、引き続き、学校・保護者・地域の連携で子どもの生活習慣を正し、『早寝・早起き・朝ごはん』の習慣の確立を目指すため、協力を仰ぎたいこと等について話しました。

その学校、地域にあった食育を推進するには、生徒の状況の把握とデータ化が必要です。昨年度一年間の朝食指導においては、佐倉市学校栄養士会・千葉県学校栄養士会・佐倉市教育センター等から多くのデータを収集できたことが指導につながりました。

学校栄養職員は1校に1人と限られた力ですので、教職員のみなさんはもちろん、家庭、地域、そして関係機関(教育センター等)のご協力を、今後もよろしくお願ひいたします。

(学校栄養職員 山本紀代子)

教育センター資料あれこれ

佐倉市教育センターには、佐倉市の学校教育や歴史に関する蔵書等の資料が850冊以上保管されています。

貴重な資料や蔵書の中には「佐倉学」の学習に役立つものもありますので、多くの先生方に閲覧していただきたいです。資料はセンターでの閲覧が基本ですが、学校へ貸し出し可能なものもあります。「このような資料を探しているのですが・・・。」という希望がありましたら、まず連絡をいただきたいと思います。教職員向けの資料が多いのですが、一般の方も閲覧することができますので、気軽に来所してください。

教育センターの資料の一部を紹介します。



【ふるさと歴史読本】

井野長割遺跡などをはじめとする原始・古代の佐倉から、近世における佐倉藩の藩政改革、佐倉連隊と近代の佐倉までの歴史や、佐倉ゆかりの人物などについて学ぶことができます。印旛沼をはじめとした佐倉の自然についてもわかりやすく書かれています。

編集 佐倉市役所総務部総務課市史編さん室

【写真に見る佐倉】

幕末から現代に至るまでの佐倉のまちの様子や佐倉にゆかりのある人々について、写真で解説した冊子です。時代やテーマごとに解説されており、佐倉をわかりやすく理解することができます。

編集 佐倉市総務部行政管理課

【古今佐倉真佐子】

佐倉藩士の渡辺善右衛門によって1700年代の半ばに記されました。当時の佐倉城や佐倉のまち、人々の生活、昔話などが克明に描かれています。江戸時代の佐倉の様子についてくわしく知ることができます。

編集 佐倉市史編さん委員会

【佐倉市細見】

佐倉市内に所在する各種の文化財を紹介した冊子です。地区ごとに佐倉の歴史や自然、文化に関する文化財が紹介されています。また、佐倉の歴史学習のインフォメーションとしても調べ学習に役立ちます。

発行 佐倉市教育委員会文化課

編集後記

入学、進級から約2か月が過ぎ、子どもたちも新しい環境に慣れてきたことだと思います。今回のセンターだよりは、新年度が始まりご多用のところでしたが、上志津中学校と上志津小学校のご協力を得て、貴重な実践事例を掲載させていただきました。学校と家庭の連携等、各学校における指導の工夫改善の一助としていただければ幸いです。

平成18年度末の人事異動に伴い、大野尊史所長に代わり杉本 勉所長が着任しました。今年度も佐倉市教育センターへのご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

(西村 隆徳)